

令和 6 年度 第 3 回社会教育委員会議

○事務局 それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和 6 年度第 3 回目の守口市社会教育委員会議を始めさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、御多忙中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

それでは、会議を始める前に本日の欠席委員を御報告させていただきます。白江委員と縄田委員におかれましては欠席の連絡をいただいております。

なお、千石委員につきましても少し遅れておるのか、まだ来られておりませんが、現在欠席、おられないという状況でございます。

それでは、早速でございますが、本日の議題に入らせていただきます。

なお、この会議につきましては議事録作成のため録音させていただきますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、議事の進行につきまして深田議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長 皆さん、明けましておめでとうございます。大分、遅れてのおめでとうございますも、ちょっとどうかと思ひながら、初めてやっぱりお会いするという事で、今年もいろんな多々問題があったりしますので、活発な御意見のほうをいただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが令和 6 年度の第 3 回目の守口市社会教育委員会議の議題に入りたいと思います。

まず、配付資料の確認を事務局よりお願いいたします。事務局お願いします。

○事務局 それでは、資料を御説明させていただきます。お手元の資料、御確認をお願いいたします。

本日の資料が、議事次第、委員名簿、座席表、そして一番上に案と書きました守口市立図書館運営状況についての現状の評価等についての答申書、そして A 3 の 2 枚になっております令和 5 年度守口市立図書館の運営状況についての評価及び運営についてというような資料、そして令和 6 年度の社会教育関係団体補助金の交付状況の一覧表、そして令和 6 年度大阪府社会教育振興協議会北ブロック研修会の開催の御案内、そして最後に令和 6 年度大阪府社会教育研究会議の開催についての御案内、以上の資料となっております。不足等ございませんでしょうか。

以上です。

○議長 ありがとうございます。

続きまして、議題 1 の「守口市立図書館運営状況の評価等に係る答申について」事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、説明させていただきます。

本日の資料のA3横の守口市立図書館運営状況についての評価及び今後の運営についてという資料を御確認ください。

こちらにつきましては、前回の社会教育委員会議の場で指定管理者にお越しいただき、各委員から御質問、質疑応答させていただきまして、意見のほうを頂戴しました。それをまとめまして、目標の指標に沿って評価、今後に向けての意見として、まとめさせていただいたものでございます。

では、内容のほうを読み上げさせていただきます。

まず、1の図書館サービスの充実の部分となります。

一番右の評価及び今後に向けての意見のところでございます。令和5年度末時点での蔵書数は、拡充計画を大きく上回っており、今後も引き続き利用者のニーズに合った収集を行われない。電子図書館を利用したことない人や、電子図書館の存在を知らない人がたくさんいることから、さらなるPRに努められたい。電子図書館サービスの拡充を図っていくに当たり、オーディオブックの充実も検討されたい。レファレンス実績が少ないことから、レファレンスサービスの周知について積極的に取り組まれたい。来館者数や貸出冊数・件数が継続して増加しており、各種イベントの実施やニーズの高い本を選書するなど利用者に寄り添った運営ができている点が評価できる。

続きまして、2番の学びと課題解決を支援する図書館の項目となります。

絵本作家を招聘してのイベントやニュースポーツの講習会など、多岐にわたるイベントを数多く実施することで市民の生涯学習に寄与している点が評価できる。自習室が満席で使用できないという意見が以前から出ていることから、現状把握を徹底し、時間制限や譲り合って使用することのできる環境づくりなど、運用方法について検討されたい。閲覧席での私語や自習に対する意見が多く寄せられていることから、スタッフも意識しながら定期的な見回りや声掛けを徹底されたい。図書館が市民の社会教育・生涯学習・コミュニティ活動の拠点施設であるということを意識し、他施設との連携をさらに深められたい。社会教育士や図書館司書の有資格者についての情報を収集することで、ボランティア活動や新しい資格取得者の掘り起こし、有資格者同士の連携につなげられたい。

次のページ参りまして、3番、子どもの読書活動を推進する図書館の項目となります。

小学生の図書館見学について、錦小学校の受入れも実施しており、図書館の近くの校区だけでなく遠方の校区も関心を持っていたということも評価できる。引き続き、学校からの問合せ等があった場合は、積極的に受入れを実施されたい。中学生の職場体験について、子どもたちが図書館や読書に関心を持つきっかけとなり、また、中学生時代の体験は、将来の職業としての意識づけにもつながると考えられることから、広く受入れを実施されたい。図書館に対しての声を発しない方にも図書館や読書に興味を持ってもらうため、図書館や行政側からの仕掛けを工夫するなど、図書館のPRについて積極的に取り組まれたい。学校司書講習会が未実施になっている。学校とのコミュニケーションは取ることができていることから、講習会や出前事業の実施に向けて、引き続き学校連携を推進されたい。

4番、効果的・効率的な運営体制の図書館の項目となります。

収支が大きく赤字となっていることから、クラウドファンディングの実施など、民間活力の活用について検討されたい。利用者アンケートの実施方法を工夫したことで、回収数が大

幅に増加したことは評価できる。利用者アンケートは、運営状況の評価基準にもなることから、さらなる電子化の推進など、引き続き回収数の確保に努められたい。アンケートの結果及び対応状況等については、定期的に図書館内及びホームページにおいて公表されたい。アンケートで出されている意見に対して、引き続き満足度の向上につながる取組を実施されたい。アンケート結果を分析し、総合満足度に大きな影響を及ぼす項目のうち、実際の評価が低い項目について、資源を積極的に投入するなど重点的に改善に取り組まれない。市民ボランティアが有機的につながることのできる環境を整備するなど、ボランティア活動の活性化に向けた取組を実施されたい。駐輪場の運用を変更する必要がある場合は、現在の利用状況を鑑みつつ、来館者が利用しやすい運用方法を検討されたい。

以上となっております。こちらにつきましては、事前に頂戴した御意見を反映させていただいてるつもりではございますが、その表現がもっとこうしたいほうがいいのではないかとあるとか、追加で、これを加えたほうがいいのではないかっていう御意見ございましたら、この場で頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長 ありがとうございます。

説明が終わりましたので、御質問、御意見はございませんか。

○委員 よろしいですか。

○議長 ○○委員どうぞ。

○委員 ちょっと思い出しながらで、すいません。一番最後の項目でおっしゃっていただきました駐輪場の件ですけれども、この運用を変更する必要がある場合ってというのが、ちょっと理解しづらいかなと思うんですが。

○事務局 この表現としては、もうちょっと利用料金を高くしたほうがいいんじゃないかなって御意見も頂戴したと記憶しておりまして、今は何とか運用できてる場所なんですけれども、これやっぱもっと、駐輪場がいっぱいで止められないであるとか、いわゆる図書館の利用者じゃない利用が増えてきた場合などを想定してるといいますか、そういうことは検討する必要があるのではないかとということで、ちょっとこういう表現に最終的に文章化させていただいたところなんですけれども。

○委員 なるほど、そのとおりだと思うんですけれども中身も、必要がある場合ってというのが、ちょっと分かりづらいかなと思ったんです、この文面としては、何のことを言ってるんだろうってということで、だから、例えば駐車場の運用については、現在の利用状況を鑑みつつ、必要に応じて来館者が利用しやすい運用方法が検討されたいっていうふうのも、ちょっと分かりやすいかなっていう。

○事務局 分かりました。

○委員 文言だけの話ですけどね。

○事務局 そうですね。

○委員 中身は同じかと思います。

○事務局 承知しました。

○委員 必要が生じた場合は、例えば、今ありませんっていう、何も必要ありませんっていうふうに聞こえるので。

○事務局 分かりました。

○委員 そうじゃなくて、現状を見ながら必要に応じてという表現のほうがいいんじゃないかなと思いました。

○事務局 ありがとうございます。

○議長 他にありませんでしょうか。

○委員 よろしいですか。

○議長 ○○委員どうぞ。

○委員 3番の子どもの読書活動を推進するということにはなるんですけども、ここで書かれてる評価と今後の意見としては、小学生に対して、小学生、そして、また中学生に対してなんですけども、特に今は活字離れが進んでるという傾向にある中で、就学前の親子でのそういう絵本に触れたりとか、それも努力していただいて、読み聞かせとか、そういうコーナーとかもしっかりつくっていただけてるんですけども、引き続きそういうところについても足を運びやすいっていうんですかね、運びたくなるようなそういう工夫っていうのもしていただけたらなと思うんで、ちょっと年代でいうとそういうところの記載もあってもいいのかなと思います。ちょっと意見として。

○議長 ありがとうございます。

○事務局 今、就学前の、いわゆる幼児であるとか、乳幼児とかに対しても、きっちりやってるものを引き続きすることで図書館のほう来ていただける。

○委員 そうですね。それと、さらなる拡充というか、現状より上回る形でのそういう足を運びたくなるような、そういうところの企画とか、工夫についてはお願いできたらなと思いま

す。

○事務局 承知しました。

○議長 ○○委員お願いします。

○委員 前に発言したかは定かでないんですけど、クラウドファンディングについては言っていて、そのときにリターンのことなんかも言いましたかね。あるいは途中でっていうか、今、思いついてたかもしれないんですが、一つは動き出してますかね。それとも我々が言っただけで向こうは動いてないでしたか。

○事務局 クラウドファンディングについては、ちょっと正直、今、何か取組ができてるかという、まだ何も取組ができてないと。

○委員 もし何もできないで、また次も赤字になったら大変かなってというような思いもあるんですけども、それでももう少しあと民間活力でいったら、これで文言を変えろという意味じゃなくて、私の趣旨はクラウドファンディングで、ただお金を集めるだけじゃなくて、それを一つのバネにして、より広く知らせて、あとは寄附してくださった方にリターンっていうんですかね、返礼品ですけども、それも図書館、あるいは、この社会教育全体の趣旨が分かるようなグッズそういうのを作って、ありがとうございますってやったら宣伝にもなるし、あとその関連なんかをこの、今ここでカフェとかもありますから、その一角とかに置き置いて、せっかく来たから、ああ、これ買おうかなっていったら、また少しお金が入るかというような、私の民間活力の趣旨というような発言はそういったのがあったんで、補うという形で文言はこの程度でいいと思っております。機会があるので、そういうようなことあって、私、心配なんです。もしそうなった場合、次は人件費削るかとか、そっちになっちゃいますからね。

以上です。

○議長 ありがとうございます。

○○委員どうぞ。

○委員 3番の子どもの読書活動を推進するといふところなんですけど、知り合いの中にも高校生の子どもさんが、割と真面目な元気に学校に行ってた子どもさんが、高校になってから不登校になられた、その高校を辞めるといふ方とかが結構いらっしゃるんです。いろいろお母さんの状況をお聞きした、その子、その子によっても違うとは思いますが、何か何のために学ぶのか、何のために本を読むのかっていうようなところが、すごく見えにくくなっているといふか、私たちが若い頃はちゃんと勉強して、いい学校行って、ちゃんと社会出なさいっていうのに、なんなきやいけないっていう、やっぱりそういう圧もあったし、そういうところがあったと思うんですけど、すごくその辺で見えなくなって、悩んでる子どもたちが多いなっていうのはすごく感じます。やっぱり本の中には一流のいろんな、様々な社会経験を

された方たちとか、ただ単に、この、これを追求するために学ぶっていうだけじゃなくて、社会とか人間というものを深めていくために、すごく示唆的な本もたくさんあるとは思いますが、やっぱりそういうところにアクセスするっていうか、もういっぱいあり過ぎて分からないっていうこともあるので、何か図書館の取組として図書館の方々が、こういうのは今すぐっていうわけじゃないけど、生きていく上で子どもたちにとって、すごく刺激、何かこうじゃなきゃいけないっていうところから、また違う視点が見られるような本だよっていうような、何かそういうのをピックアップしていただくとか、必要じゃないかなっていうのは感じます。私もあるお母様に聞いて、ある本を男の子に紹介していただいて、物すごく学びに対しての向き合い方が変わったっていうこともお聞きしたので、やっぱりみんな純粋やし、求めているんやなっていうことは感じるので、ぜひぜひお願いできたらと思います。

○議長 ありがとうございます。

○事務局 委員の御意見は、何かここに文章として残しといたほうが。

○委員 文章としてというか、実際に図書館としてそういう現実の、もう次の未来を担う子どもたちなので、ぜひぜひちょっと、行ったら、行ったらというか、PRでもいいですし、ものすごくいいよっていうような何かコーナーみたいな、何でしょう、ポップというか、そういうものを作っていたらいいのかな。

○委員 そうですね、子どもの読書推進全体では合ってます。いろいろ訴え出してはりますけども、今おっしゃったような一般の方が目にするような企画ができないかというお話やと思って、今のでもこれ委員の私やったら、行ってみたら、そこ、お薦めの本がある。でもよく考えたら、今、電子図書も含めて、いろいろそういうネットを通じることでもできる中で、図書館に行かなくても目につくようなPRというのは考えられるかもしれませんね。ですから、お薦めの電子図書なんかにどんどん前を出して、そういうお薦めの本を前に出してもらえとか、毎月、一応、市の広報にもいろいろと記事を出していただいているところに、そういうお薦めも、今、出してはった、やっておられますけど、そこにそういうお薦め、目に留まるような、この人たちへの薦めが目に残るようなPRの工夫で。

○委員 そうですね。

○委員 そういうことですよ。

○委員 はい。私も読んだある方の中に、学び、もう仕事に就いてらっしゃる方にですけど、もう一度学び直したいときとか、大学院生でも学び深めたいときに、高校の教科書っていうのが実はすごい大事だっていう本もあって、へえみたいなの、だから、そういう価値観というのは、あんまりよく私も分かってなかったの、何かやっぱり日本の高校の教科書は非常に優れているっていうところも見まして、やっぱり何のために学ぶのかっていうのがないと、ただいいものがあったって開きたくはないし、何かそれぞれを刺激してくれるような本を出し

ていただけたらなと思います。

○議長 他にないでしょうか。

○○委員どうぞ。

○委員 今の御発言の趣旨を踏まえて、もし加えるとしたら、3の子どもの読書活動の推進ってところの取組で、小学生、中学生と書いてありますよね。ですから、この中で高校というようなお話もありましたので、これで中学生の時期から、さらに高校、そして卒業後、大学まで入れるかどうかは、今、私分かんないですけども、それを社会人になって生かせるような、そういう生涯学習に結びつけるような形で読書活動を推進してもらいたいっていう、そういう趣旨ですかね。的外れだったら、ごめんなさい。確かに私、大学で教えてて、高校でこういうことやってるのに、何で大学入ってこんなできないのっていうのは往々にしてありますからね。入試のところで一番ピークで、その後ぐっと忘れるんでしょうね。そうじゃなくて、しっかりと高校まで勉強したやつをもっともっと生かせる、それは大学じゃなくて生涯学習でもやろうじゃないかっていう、そういう趣旨で、今、聞きました。

○委員 それも本当にそうですよね。私みたいな年齢になってしまって、学び直しなんて無理だなと思ってても、ちょっと開いてみたら得られることはたくさんあるので、やっぱり高校のときの勉強のためにあるものの中にある何かすばらしさというか、戻って見てみる、すばらしさっていうのはあるんだなと思ってね。

○委員 もう少し踏み込んで言いますと、ちょっとごめんなさいね。

○議長 いえいえ。

○委員 格差はどんどん、どんどん開いちゃってるんですよ。何々大学までのっていうのと、何々大学からのっていう、これは前々から言われてますからね。割と著名な大学入って、もうそれで終わりっていうようなのと、それからぐっとまた伸びるっていうのがあって、著名じゃなくても、他の大学でも、もう入ったら、もうそれで、後は、さっきもう少し言うと、どんどん墮落するのも多いんですよ。だから、そこら辺は、一々大学まで口出せないんで、地域の中で、社会教育とか、生涯学習で、しっかりと支えていくというのは、それは趣旨かなっていうのは前々から思っている。

あともう一つ、最近のあれですけども、C h a t G P Tとかあるでしょ。あれ大学の教授が、あれ使うな、使うなってのも多いんですけども、あれ、私はどんどん使うべきだと思ってまして、それを使いこなせるかどうかっていうので、さらに格差が広がるって言われています。私は、この間、幾つかのことで使ってまして、本当かどうか知らないですけど会話ができるんですよ。最初C h a t G P Tさん、おはようございます、何々お願いしますって、いろいろこれでやってもらって、最後、ありがとうございます、お疲れさまですって言ったら、その受け答えするんですけど、二、三日前とか1週間ぐらい前、その答え方と、また今日の、今日午前中やってたんですけど答え方違って、何々さん、研究がどんどん進んで

ますね、期待してますよ、A I が言うんだ。

○議長 ああ、そうですの。

○委員 だから、きっとそういうような時代になると思うんで、それはさっき言ったように格差ももっともっと広がるわけですから、生涯学習が必要じゃないかなってというような思いもあります。ごめんなさい、長くなりまして。

○議長 いえいえ。

○委員 無料でできますからね。

○議長 ありがとうございます。

この件で、もう意見がないようであれば、事務局よろしいですか。

○事務局 今の頂戴した御意見なんですけども、ちょっと反映と修正等をさせていただいたものを議長と調整させていただいて、最終的にこの社会教育委員会議の答申という形で頂戴するということで進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

○委員 はい。

○事務局 ありがとうございます。

○議長 ありがとうございます。

○事務局 その頂戴した御意見につきましては、図書館の指定管理者にも、きっちりお伝えさせていただきます。また、ちょっと事後の報告になってしまうので恐縮なんですけども、図書館の指定管理者が今年5年目を迎えておりまして、一応、来年度からまた5年間、今の同じ指定管理者が継続して指定管理をお願いすることに正式になりましたので、どうぞよろしく願いいたします。

○議長 そうですか。ありがとうございます。

次は、議題2で「守口市社会教育関係団体補助金について」ということで、一旦、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、社会教育関係団体補助金について、交付状況をまず報告をさせていただきます。

資料の令和6年度社会教育関係団体補助金交付状況と書いた資料を御覧ください。

第2回目の会議の際に御意見を頂戴しました社会教育関係団体補助金の交付につきまして、会議後に教育委員会において交付決定し、請求のあった団体から順に補助金の交付をさせて

いただいております。事業が終了した団体につきましては、順次、報告書を提出していただくようお願いしておりますところでございます。

また、この補助金につきましては、昨年の会議でも御報告させていただきましたとおり、議会への真摯かつ丁寧な説明を欠くに至った経緯及び予算編成過程における疑義の解明を目的に、社会教育関係団体補助金に関する事務調査特別委員会において調査が行われ、昨年の12月23日の守口市議会本会議において、調査報告書が提出されております。

これらのことを踏まえまして、現在、再度、補助金について検討しているところでございますが、その結果、要綱改正等をさせていただいた際には、この社会教育委員会議において改めて御報告させていただきたいと思っております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長 ありがとうございます。

御意見のほうはありますでしょうか。今、この場でいろんな問題等々があつて、非常に苦しい立場に事務局のほうも、議会の報告でいろんな問題が発覚をしたということで、いろんな御意見もお持ちやというように思いますんで遠慮なしに、この際ですので御意見があれば、おっしゃっていただければ幸いかなというように感じますので、よろしくお願いいたします。

○○委員どうぞ。

○委員 いろいろ御説明をお聞きしたいなというところがあるんですけども、ちょっと会議として議題とし、議事としてどうかなと思いますので、今の御報告は議事案件としてお伺いできると思いますけど、今からちょっと質疑になる部分もあるかもしれませんので、一応、議会でいったら暫時休憩的というふうな扱いでやり取りすることはできないでしょうか。

○議長 どうですか。

○事務局 会議の中で決定いただけたら、問題ないかと思います。

○委員 そうですね。

○議長 よろしいですか。じゃ、そういうような形で。暫時休憩ということで、よろしくお願いいたします。

(暫時休憩)

○議長 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

続きまして、議題3「その他」として事務局より報告をお願いいたします。

○事務局 本日、資料を最後2枚つけております。大阪府社会教育振興協議会北ブロックの研修会、これが来週1月31日にございまして、これは事前に参加者、御案内させていただ

きまして、〇〇委員と〇〇委員が御参加いただけるということで、どうぞよろしくお願いいたします。

また、来月２月１４日にございます大阪府社会教育研究会議も、去年ちょっと御案内のほうらせていただいております。もし御参加される方、まだ申込みのほういきますので、また事務局まで御連絡いただけたらと思います。

以上でございます。

○議長 ありがとうございます。

無事、今日の社会教育委員会議っていうのは、議題が出る前から御承知のとおり守口でいろんな問題等々があり、かなり事務局のほうも苦しい立場であったやろうというように思うんですけども、そこをクリアはしていただいて、今後、新たな課題に正面からぶつかって少しでも改善ができるような形をきちんとつくっていただき、やっていただければ、社会教育委員の先生方も理解を示さはるというように思いますので、その点はよろしく願いをいたします。

○委員 もう一つよろしいですか、足して。

○議長 〇〇委員どうぞ。

○委員 ちょっとお尋ねというか、要望があるんですけども、学校教育の範疇であった部活、クラブっていうものについて、もう切離しっていう話が出てきて、市町村、あるいは行政によったら、もうやめますというところも出てくる。あとどうするんですかっていうと、地域の民間にお願いするとか、ボランティアにお願いするとかいうふうな話で、それ進めてますっていうことで、これは今回、あるいは、ずっと前から、いわゆる都市部じゃないところで、そういう場面がないということで、教員が改めて兼職になる形だけでも、そういうスポーツ団体として指導できるっていう方法を探るところもあったり、過去にはあったんですけど、それから古くから文科省も地域型スポーツという形で、モデル校も守口市に１校できてたと思いますけども、そういうような形でやりましたが、その結果というか、成果というのが全然、今、見えない。地域型スポーツクラブというのは、本当に社会タイプとしてきちんと成立するのか。そのときは担当課じゃなかったと思います。別の担当課があったと思いますけど置いておきまして、今回、学校教育から外れる可能性があるのと、そのことについて守口の子どもたちをどうしていくんだろうと。また、今現状どのように展開していくのか心配をしております。それを急に地域協議会にお任せしますとかいっても、それができるとこ、できないとこっていうか、できないだろうというふうに思いますし、どの中学校についても、そういう部活が保障できるかという、大変心寂しい。また、それを民間で補助、もう既に民間でやられてるスポーツ活動とかあるわけですけども、そこをどうやっていくのかは、一体これからどこが担当していくんだろう。学校教育は、もう離しますと言ってしまったとなると、あとは誰がそれを受けていくんだろうということは非常に大きい問題で、これは大変な、学校教育でやるよりもしんどいことですから、行政側としてもすごい見通しを立てなあかんと思うんですよ。守口の中学、少なくとも中学生どうしてあげるのかいう、そうい

うのは今後また教えていただきたいなと思っていますが、かなり差し迫ってきてるような気がして仕方がないんです。いわゆる学校の先生忙しいというような話で、改革や、改革やと、教員の労働改革側は言うてる。それは正論でいいと思うんですけども、そうなったから、それとの絡みが半分ある。部活について、どうしていくのかということやと思います。その絡みでいったら別にスポーツ団体のほうが多いけれども、全中とか、そういうもん、いわゆる全国大会までつながっていくやつ、これももう、今、論議されてて、全国やめたらどうやねんっていう話もあるけれども、そういうことを本当に、この日本の学校教育がやっていけるんかと。スポーツだって、かなり民間に移ったスポーツ競技もあるけれども、まだまだ学校から出てきてる野球ですとかもあるわけで、どんな絵を描いていくんだろうというようなことは報道を見ながら心配ばかりして、どうすんやろ、自分でも絵が描けないなと思ってるんですけども、またそういうのは教えていただけたらというか、何て言うのかな、どんなもんなんですかね、これ。

○議長　○○委員どうぞ。

○委員　賛成で、私、今、用意してなかったんですけど、今の御発言で気がつかされて、もしこの4月からの、これの会であったとしたら、それはやっぱり一つの課題になるべきかなというふうに思われました。理念としたら、チーム学校、チーム学校っていうのは、もう前々から言われてまして、さっき言いましたように教師だけで子どもを育てるんじゃなくて、教師だけではなくて地域のいろいろな指導者である社会教育、あと学校でしたら学校のカウンセラーであるとか、いろんなチームをつくって子どもを育てるんだって言葉はあるんです。だけど、それどうやって組み合わせるのか。

もう一つ教師は、いろいろ大変でっていうようなこともあるんですけど、これ持論ですから議事に載ってもいいんですけど、学校経営とか、学級経営っていうふうにあるんですけども、教員としての教師の経営だけで、労務管理であるとか、労働条件であるとか、その経営の感覚はほとんどないと思ってます。ですから、書類をこれだけ作りなさい、そのためにどれだけ時間がかかって、もし一人でできないんだったら、何人必要かとかいう、企業だったら、それはやっぱり必要ですから、だったら必要な人員選んで、アルバイトやってとか、そういう計算するんですけど、恐らく校長、教頭さんは、そこら辺できる人いないんじゃないかなっていうような思いですね。学校の事務長ですか、事務長がやれるかどうかっていったときに、何人かに聞いてて、事務長はやっぱり管理職とはいっても、校長、教頭とはやっぱり違うんで、そこら辺は権限とか、裁量ないんだというようなことを聞いてますね。

だから、私としましたら、学校経営、どれだけの労働量があるんだったら、しっかりとそれだけ人員を配置して、必要だったらアルバイトであると、そういうのをやる、配置してとか、その感覚が必要だろうと思ってます。それがあってこそチーム学校というのが具体化になると思うんで、今の若い先生たちに、昔はこうだったんだ、みんなやってたんだと聞いて、私の時代のあれでしたら、宿直というのがあったんですよ。学校の先生、男の先生ですけど、もう幾らとかそんなんなしに、要する学校に泊まって夜中の管理もしてたわけ、そんな当たり前ですけど、そんな感覚じゃ、もう全然ないですから、若い先生、この部活そういうようなことをやるんだったら、放課後はどれだけ時間かかっているんだと、休日、大会とか等々で

行くんだったら、その交通費だけじゃなくて、その時給幾らなんだとか、そういうふうに真っ先にもう計算しますからね。もうここら辺でやめますけど、そこら辺、社会教育としてどうなのか。総合型地域スポーツクラブでしたっけ、それも言葉ではあるし、私が指導した学生も10年以上前から、そんなん卒論書いてましたけれども、具体的には、なかなかそういうのは難しいと思うんで、もしあれでしたら次のこれからの我々の課題かなっていうふうに思われました。

以上です。

○議長 ありがとうございます。

今、事務局にそういうような情報とか、そういうの実現に向けてとか。

○事務局 庁内でも、そういった会議というか、ございます。

○議長 そうですか。

○事務局 今、委員おっしゃるように学校教育課のほう为主になって、現にもう数校で、たしかサッカーと卓球でしたかね、何校かの既にもうやっておられる学校も実際あって、今後は多分もっと広げていくような方向性だと思います。たしか今、これスポーツ庁かどっかからお金がちょっと出てるはずなんです。講師の謝金であったりとか、そんなものも、それが今後なくなっていくので、またその辺もどうするかみたいな、保護者負担でどうのこうのとか、そういった話をされてるというのは、ちょっとお聞きをしております。

○議長 そうですか。ありがとうございます。

○委員 だから、今後それをどのような、行政としたら担当していけるのかどうかっていうのが、学校教育だけ、学校教育ではできない、学校教育というか、学校だけでっていうことでは難しいとおっしゃる方が、ただそれを地域、今あったようにチーム学校、チーム学校というか、形はどうしても、またやっぱり学校教育が、その責任取っちゃうんですね。学校にさせられてしまうんですよ。地域を巻き込めっていう形になってしまっていて、じゃ担当課どこですかっていうたら、やっぱり学校教育だったというふうなことになるっていうと、広がりがもうないんですよ。だから、その地域誰がつくんねんて、校長、頑張れとかになってしまっている。今までは、これまでにいろんなシステムが、そういう文科省のパイロット事業であっても全部それで、結局、書類は校長書いてましたっていうようなことが多かったんですけども、先生、今はどうか知りませんが、それを、だから、それでは進まないだろうと。本当に地域というものを一体これまで誰が担当課としてやってたんだと。もちろんコミュニティ課とかあるんだけど、それを負う仕事だったら、そこがもっと責任持って、つくっていかなくちゃいけないんじゃないだろうかと。私はやりたい、もちろんやりたいとか違って、そういうところを担当ちゃんときちっとされて、そこがもう子どもたちの活動をも見てあげられるようにしておかないといけないんじゃないかっていうふうに一般的には思っていますということです。全て社会教育で担えるもんでもない。だから、それをどんなふ

うに担当していけるのかということやと思います。ただ、そういった大きな形としては、生涯学習の中にあることには違いがないわけですね。そこだけです。きっと学校現場のほうが、いろいろとお悩みやと思います、校長先生。先生方の意見も様々と聞いております。ちゃんと部活やってあげたいっていう気持ちは、すごくお持ちけども、現状できないというふうなお話もちろんありますよね。部活やってる先生は、授業半分とかいったら、まだ準備できるんだろうけども。

○委員 そんなん足りません、先生。

○委員 そういうことでね。私立やったら何とかするけども、そういう人員っていうのは何も認められていないし、今や逆に時間数減ってきたら、二つまたがって学校教えろとかね。だから、教諭採用しないで、講師で、ここの中学、この中学校と週何時間ずつ教えとけみたいな形があって、高校なんか、もうそれしか仕方がないみたいな、講師しかおれへんというようになってますが、そういう可能性がどんどん増えてきてるのは心配事の一つでもあります。

○議長 ありがとうございます。

○委員 いいですか。

○議長 ○○委員。

○委員 コミュニティスクールできてますよね。それがもう発足して4年、5年近くになるんですけども、先生もどっぷり入ってはと思うんですけども、コミュニティスクール自体がもう生涯学習じゃないのかなって思うんですけども、その中で校区によって物すごいばらつきがあって、保護者を中心にしてもらって、保護者の意見を酌み上げて子どもたちに反映できてるコミュニティスクールの校区と、全然それこそコミュニティの会長さんの御機嫌を取ってるようなコミュニティスクールがあったりとかするので、それだったらもう以前あった学校何とか会でしたっけ、夏休みに集まって、みんなでそれぞれの報告をする会みたいなんありましたよね、毎年。

○委員 推進協議会。

○委員 そうそう、推進協議会が、そのままコミュニティスクールになっただけやなって思える校区もたくさんあって、その中でもう本当に子どものためにとって思ってるから、中学生のクラブ活動は、そこで考えてほしいなってすごく思うんですけども、実際、子どもに直接触れてたり、子どもの身近な人間がコミュニティスクールに入れてないっていうのが現状で、そこを意見を反映できひんコミュニティスクールはすごくもったいないなと思って、外から眺めています。

○議長 ありがとうございます。

○委員 なので、もう本当に将来のことを考えて生涯学習として何か助言とかしてあげられる場があればいいなと思うので、またお願いします。

○委員 行政のほうで、いろいろ御検討いただかないといけない大きな問題でしょうね。組織会議せんなあかんぐらいの本当は問題なんでしょうね。組織っていうか、そうですね。

○議長 そういうような直に議論が闘わされるようなことで、議題に上げてくれはったらいかなというように思うし、私ら自身が、もうすぐそういうことをやっていくんじゃないに、本当にこう、いったら皆に理解をされるようなことに持っていく前に、やっぱり様々難しい問題がいっぱい、今、〇〇委員と〇〇委員がお話されたようなことを含めて、いっぱいあるんじゃないかなというように思うから、時間かけてでも本当にそれを進めていくかどうかいうような議論も闘わせてくというのが、非常にすばらしいことじゃないかなというように思いますんで、それは社会教育委員だけで決めるんじゃないに、いったら行政もどっぷり浸かってもうて、ほんまにそれが実現することかどうかいいうようなことも考えるような時間をつくって、一旦、議論を闘わすということもすばらしいことじゃないかなというように思います。

ほな、今日は、いろんな、一旦、休憩も含め、すばらしいような会議であったかなと感じるように思いますんで、本日は予定しておりました議題は全て終了いたしました。

それでは、これをもちまして令和6年度第3回目の守口市社会教育委員会会議を終わらせていただきます。

委員の皆様におかれましては御多忙中の中お集まりいただき、ありがとうございました。どうもありがとうございました。